

2021年2月期 第2四半期 (2020年3月1日~2020年8月31日)

決算説明資料



2020年10月13日(火)



2021年2月期 第2四半期 営業概況

	2020年2月期 (2019年3月～8月)	2021年2月期 (2020年3月～8月)	前期比	増減率
営業収入	144,058百万円	73,991百万円	▲70,067百万円	-48.6% ↓
営業利益	33,539百万円	7,098百万円	▲26,440百万円	-78.8% ↓
経常利益	34,578百万円	7,897百万円	▲26,680百万円	-77.2% ↓
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22,885百万円	3,795百万円	▲19,089百万円	-83.4% ↓

2021年2月期 第2四半期 営業概況

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う政府・自治体からの休業要請等は解除され経済活動が段階的に引き上げられたものの、当社の主力事業である映画・演劇事業への影響は継続しております。

当社グループでは、第2四半期より、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国の映画館や演劇劇場で座席間隔を確保しての座席販売を行う等、感染拡大防止のガイドラインに則った体制を構築し、営業を再開しております。

新作映画のヒットや、演劇公演における有料のライブ映像配信等により復調の兆しが見えてきたものの、劇場をとりまく環境や提供作品において不透明な状況が続き、当社グループの事業全般に新型コロナウイルス感染症拡大の影響が残っており、第2四半期としては、大幅な減収減益となりました。

【第2四半期決算の概況】

映画事業では、映画営業事業において、スタジオジブリ作品のリバイバル上映を皮切りに、『今日から俺は!!劇場版』をはじめとする新作がヒットしたが、前年同期には大きく及ばず、大幅な減収減益。

映画興行事業において、6月から全館での営業を再開したものの、上記の東宝配給作品以外の邦洋画の話題作が公開延期になっていることに加え、感染予防措置として間隔を確保した座席の販売措置を行っていたため、大幅な減収となり、営業損益は赤字を計上。

映像事業において、『天気の子』等のパッケージ販売が好調に推移したものの、出版商品事業を中心に邦洋画の話題作の公開延期が影響し、大幅な減収減益。

演劇事業では、7月より間隔を確保した座席販売等の感染予防の取り組みを行いながら、順次公演を再開。一部公演では有料のライブ映像配信の実施等の新たな収益確保に努めたものの、減収となり営業損益は赤字を計上。

不動産事業では、不動産賃貸事業において、日比谷シャンテの臨時休業の実施による賃料の免除や保有物件のテナントに対する賃料減額対応があったこと、不動産保守・管理事業において、ホテルや劇場の清掃業務等の受注減少とその回復の遅れ等により、スバル興業(株)における道路事業は堅調に推移したものの、全体としては減収減益。

なお、劇場や商業施設等の臨時休業期間中の人件費・借家料・減価償却費等、ならびに緊急事態宣言発出以後、解除されるまでの期間に中止を決定した演劇公演に係る製作費用等を「臨時休業による損失」として特別損失に計上しています。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金等を「助成金収入」として特別利益に計上しています。

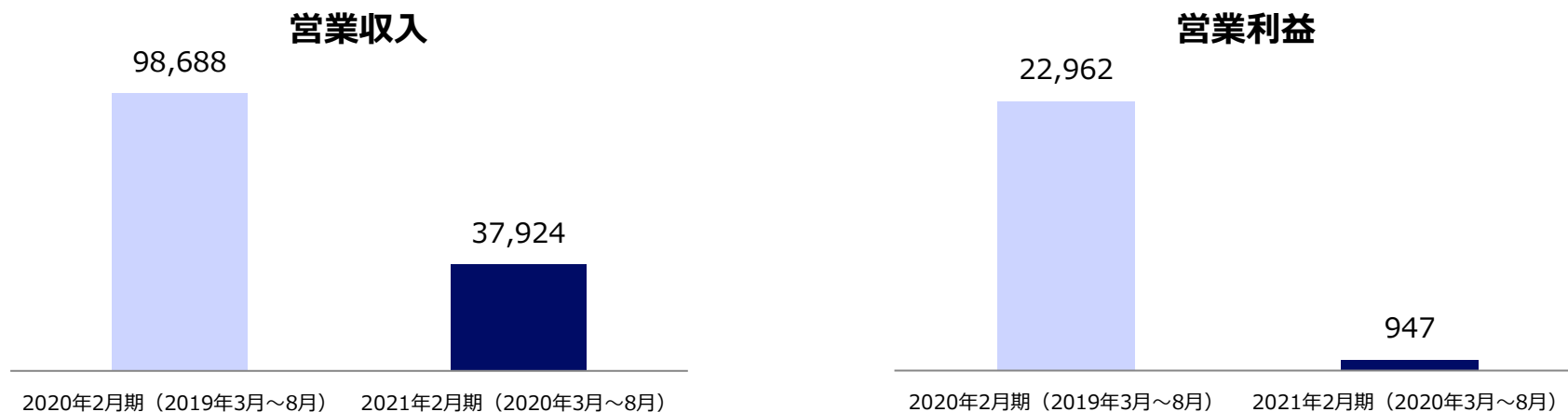
セグメント別業績一覧

	営業収入 (単位: 百万円)			営業利益 (単位: 百万円)		
	2020年2月期 (2019年3月~8月)	2021年2月期 (2020年3月~8月)	増減率	2020年2月期 (2019年3月~8月)	2021年2月期 (2020年3月~8月)	増減率
①映画事業	98,688	37,924	-61.6% ↓	22,962	947	-95.9% ↓
映画営業	31,232	12,032	-61.5% ↓	8,332	2,935	-64.8% ↓
映画興行	52,296	12,269	-76.5% ↓	10,877	▲ 3,800	—
映像事業	15,159	13,623	-10.1% ↓	3,752	1,813	-51.7% ↓
②演劇事業	8,730	2,069	-76.3% ↓	2,462	▲ 1,146	—
③不動産事業	34,197	32,874	-3.9% ↓	9,824	9,315	-5.2% ↓
不動産賃貸	14,778	14,080	-4.7% ↓	6,599	6,483	-1.8% ↓
道路事業	14,087	14,074	-0.1% ↓	2,708	2,567	-5.2% ↓
不動産保守・管理	5,331	4,719	-11.5% ↓	517	264	-48.8% ↓
④その他事業	2,441	1,121	-54.1% ↓	103	▲ 194	—

セグメント別業績（四半期別）

	営業収入（単位：百万円）		営業利益（単位：百万円）	
	第1四半期 (2020年3月～5月)	第2四半期 (2020年6月～8月)	第1四半期 (2020年3月～5月)	第2四半期 (2020年6月～8月)
①映画事業	14,803	23,121	▲ 544	1,491
映画営業	3,577	8,455	86	2,849
映画興行	3,525	8,744	▲ 1,722	▲ 2,078
映像事業	7,700	5,923	1,092	721
②演劇事業	674	1,395	▲ 710	▲ 436
③不動産事業	17,076	15,708	5,046	4,269
不動産賃貸	6,964	7,116	3,315	3,168
道路事業	7,606	6,468	1,649	1,008
不動産保守・管理	2,506	2,213	81	183
④その他事業	457	664	▲ 79	▲ 115

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、スタジオジブリの長編アニメーション4作品のリバイバル上映の盛況を皮切りに、『今日から俺は!! 劇場版』（興行収入52.7億円）、『コンフィデンスマンJP プリンセス編』（同36.8億円）、『映画ドラえもん のび太の新恐竜』（同31.2億円）、『糸』（同20.3億円）を公開し、ヒットを記録。東宝東和等において、『ドクター・ドリトル』等を配給。第1四半期の映画館休業の影響が大きく、大幅に減収減益。
- 映画興行事業では、TOHOシネマズにおいて4月中旬から5月中旬にかけて全館が休業。6月5日より全劇場での営業を再開。上記の東宝配給作品を中心に稼働したが、洋画作品における話題作の公開延期と販売座席数に制限を設けたこと等が影響し、大幅に減収となり営業損益は赤字を計上。
7月3日に「TOHOシネマズ 池袋」（10スクリーン）をオープン。
- 映像事業では、パッケージ事業において、『天気の子』『劇場版おっさんずラブ』が好調に推移。ODS事業では、『PSYCHO-PASS サイコパス 3 FIRST INSPECTOR』を提供。出版商品事業において、『映画ドラえもん のび太の新恐竜』等の劇場用パンフレットやキャラクターグッズ販売に努めたものの、邦洋画の話題作が公開延期となったことが大きく影響し、減収減益。

興行収入は2020年9月末時点

第2四半期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開月	興行収入
今日から俺は!! 劇場版	2020年7月	52.7億円
コンフィデンスマンJP プリンセス編	2020年7月	36.8億円
映画ドラえもん のび太の新恐竜	2020年8月	31.2億円
スタジオジブリ 長編アニメーション リバイバル上映（4作品）	2020年6月	26.2億円
糸	2020年8月	20.3億円

（興行収入は2020年9月末日時点）

【参考】第2四半期間（6月～8月） 主要作品興行収入分布比較

東宝配給作品

興行収入	2020年	2019年
100億以上	0	1
50億以上100億未満	1	0
30億以上50億未満	2	0
10億以上30億未満	2	4
合計	5	5

他社作品

興行収入	2020年	2019年
100億以上	0	2
50億以上100億未満	0	2
30億以上50億未満	0	2
10億以上30億未満	2	8
合計	2	14

当第2四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：円)

	2020年	2019年	前年比
3月	1,202,249,004	6,203,048,140	19.4%
4月	138,867,250	10,412,314,200	1.3%
5月	68,957,350	11,445,925,516	0.6%
1Q	1,410,073,604	28,061,287,856	5.0%
6月	704,847,150	5,437,182,516	13.0%
7月	5,524,371,150	7,774,289,420	71.1%
8月	8,938,505,850	11,504,322,040	77.7%
2Q	15,167,724,150	24,715,793,976	61.4%
上期計	16,577,797,754	52,777,081,832	31.4%

※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

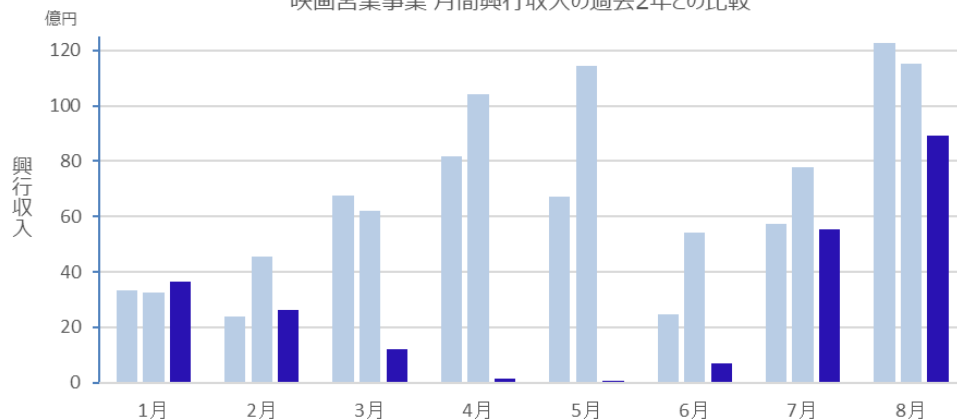
映画興行事業 興行収入推移

(単位：円)

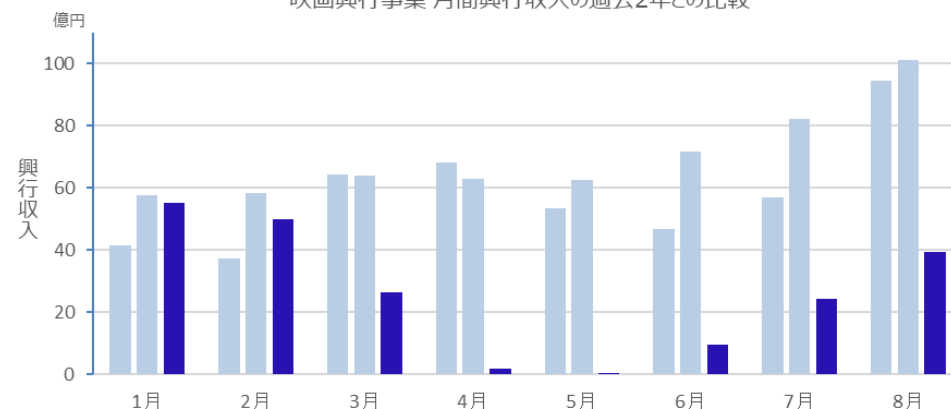
	2020年	2019年	前年比
3月	2,637,484,812	6,395,227,330	41.2%
4月	197,832,004	6,284,589,579	3.1%
5月	59,131,870	6,276,502,285	0.9%
1Q	2,894,448,686	18,956,319,194	15.3%
6月	972,494,252	7,182,958,129	13.5%
7月	2,447,555,473	8,231,336,463	29.7%
8月	3,955,265,644	10,109,147,112	39.1%
2Q	7,375,315,369	25,523,441,704	28.9%
上期計	10,269,764,055	44,479,760,898	23.1%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

映画営業事業 月間興行収入の過去2年との比較

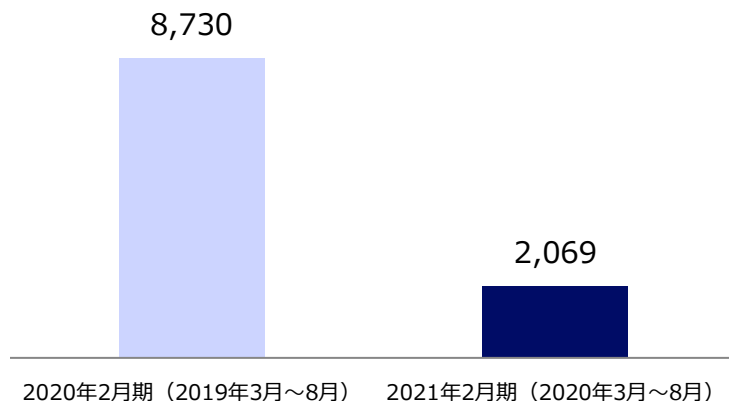


映画興行事業 月間興行収入の過去2年との比較

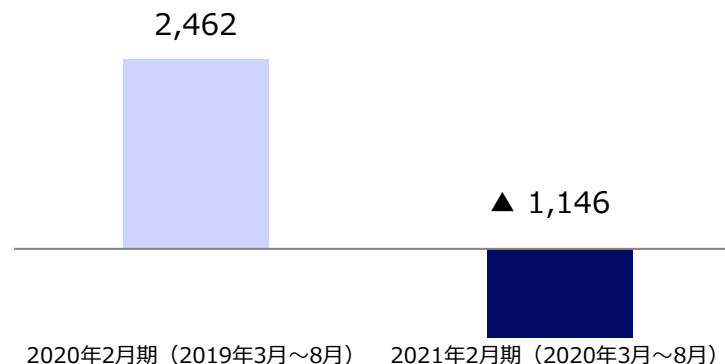


セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



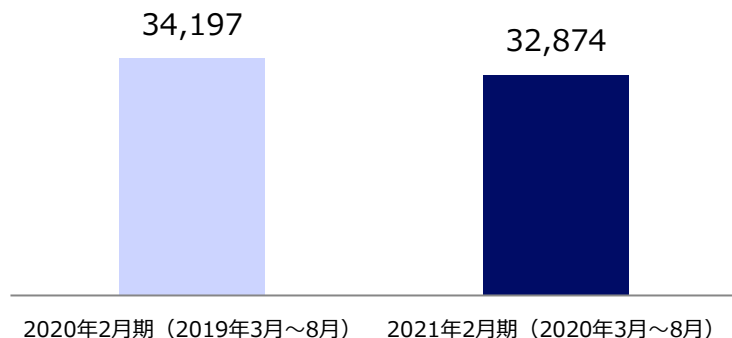
(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

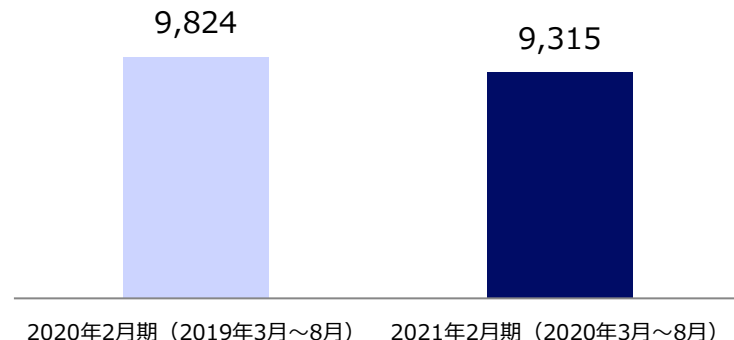
- 帝国劇場では、7月18日より、劇場の消毒や換気の強化、間隔を確保した座席販売等の感染予防策を実施しながら公演を再開。『ジャージー・ボーイズ イン コンサート』および、『THE MUSICAL CONCERT at IMPERIAL THEATRE』の2作品の一部公演において、有料のライブ映像配信を実施し、新たな収益源の確保に努める。
- シアタークリエでは、7月11日より、劇場の消毒や換気の強化、間隔を確保した座席販売等の感染予防策を実施しながら公演を再開。『TOHO MUSICAL LAB.』および、『SHOW-ISMS』の2作品の一部公演において、有料のライブ映像配信を実施し、新たな収益源の確保に努める。
- 外部公演では、東京芸術劇場（8月10日～13日）、東京オペラシティ（8月18日～22日）において、『ナイツ・テイル in シンフォニックコンサート』を上演。
演劇事業全体としては、公演を再開し有料のライブ映像配信等で収益確保に努めるが公演中止や座席制限の影響により、大幅な減収となり、営業損益は赤字を計上。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、政府や自治体からの要請等を踏まえ、商業施設の営業時間短縮や臨時休館を実施したことに伴う賃料の免除や、保有する物件の入居テナントに対しても賃料減額の措置を講じたこと等もあり、減収減益。
- 道路事業では、防災・減災対策や老朽化するインフラ整備をはじめとする公共投資が底堅く推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたものの、わずかに減収減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、ホテルや劇場等、商業施設の臨時休業を受け、清掃業務等の受注が減少。緊急事態宣言解除後もホテルを中心に受注回復の動きは鈍く、減収減益。

今後の封切予定作品および上演予定作品（2021年2月期中）

東宝（映画営業部）配給

作品	公開日
劇場版「鬼滅の刃」無限列車編	10月16日
罪の声	10月30日
STAND BY ME ドラえもん 2	11月20日
新解釈・三國志	12月11日
約束のネバーランド	12月18日
映画 えんとつ町のプペル	12月
劇場版ポケットモンスター ココ	12月25日
夏への扉 ―キミのいる未来へ―	2021年2月19日

東宝（映像事業部）ODS配給

作品	公開日
オレたち応援屋!!	10月23日

東宝東和 配給

作品	公開日
ザ・ハント	10月30日

帝国劇場

作品	公演期間
ビューティフル	11月5日～11月28日
DREAM BOYS	12月～2021年1月

シアタークリエ

作品	公演期間
RENT	11月1日～12月6日
オトコ・フタリ	12月12日～12月30日
イフ/ゼン	2021年1月
ローズのジレンマ	2021年2月6日～2月25日

日生劇場

作品	公演期間
生きる（共催）	10月9日～10月28日
屋根の上のヴァイオリン弾き	2021年2月

東急シアターオーブ

作品	公演期間
プロデューサーズ	11月9日～12月6日
マリー・アントワネット	2021年1月28日～2月21日

【作品・公開日等は今後の諸事情により変更する場合があります】

業績予想

■ 2021年2月期連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

最近の業績の動向等を踏まえ、2020年7月14日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円. 銭
前回発表予想 (A)	162,000	10,000	11,000	5,000	27.99
今回修正予想 (B)	165,000	14,000	15,500	9,000	50.50
増減額 (B-A)	3,000	4,000	4,500	4,000	
前回発表増減率 (%)	1.9%	40.0%	40.9%	80.0%	
(ご参考) 2020年2月期実績	262,766	52,857	55,068	36,609	203.77

主力の映画事業において、『今日から俺は!! 劇場版』および『コンフィデンスマンJP プリンセス編』のヒットにより第2四半期連結累計期間までの業績が当初予想を上回ったこと、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金等を助成金収入として特別利益に計上したことなどから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が予想を大幅に上回る見込みとなりました。

以上により、2021年2月期の連結業績予想を修正いたします。

(注) 上記業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであって様々な不確定要素が内在しており、その実現を確約するものではありません。実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

配当予想

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2021年2月期(実績)	—	17.50	—	—	—
2021年2月期(予想)	—	—	—	17.50	35.00
(ご参考) 2020年2月期実績	—	17.50	—	37.50	55.00

※2020年2月期期末実績は通常配当17.5円に加え、特別配当20円といたしました。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社
総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303